

令和 6 年度
大阪大学大学院人間科学研究科
博士**前期**課程学生募集要項
〈社会人特別入試〉

※ この PDF ファイルは願書等の様式を含みません。

出願にあたっては、人間科学研究科教務係窓口または郵送請求にて学生募集要項（冊子）を入手のうえ、付属の様式を使用してください。

参照：大阪大学人間科学研究科ウェブサイト

(https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/applicants_for_graduate/admission.html)

大阪大学大学院人間科学研究科

2024（令和6）年度
大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程学生募集要項
＜社会人特別入試＞

令和5年5月

目 次

アドミッション・ポリシー	1
1. 専攻・系・講座・研究分野・募集人員	1
2. 出願資格	2
3. 出願方法及び注意事項	2
4. 障がい者等の事前相談	4
5. 入学者選抜	5
6. 合格者発表	5
7. 入学手続	5
8. 出願資格審査	6
9. 個人情報の取扱い	6
10. その他	7

本入試は、大学卒業後の社会人としての経験を生かして研究に取り組むことを希望する人のためのものです。

アドミッション・ポリシー

大阪大学のアドミッション・ポリシーを受け、人間科学研究科は、人間や社会の全体的把握を目指す、総合科学としての人間科学に、より高い学術的な水準と、深遠な社会的意義を付加するために、1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として発足しました。人間科学という学問に求められる社会からの要請は、近年ますます多岐にわたり高度になってきています。このような社会的要請に応えるため、下記のような基礎学力や研究力を有する者を求めています。

(博士前期課程)

【求める人材像】

人間科学研究科では、学際性・実践性・国際性を柱とする教育プログラムを充実させてきました。博士前期課程では、つねに異領域の学問分野にも関心を向ける好奇心旺盛な態度、内外を問わず多様な実践的なフィールドに積極的に参加する行動力、グローバルな諸課題に積極的に関与しようとする意欲、並びに高度な語学力を備え、世界に向けて発信できる能力を身につけたいと希求する学生を強く求めています。

【入学者選抜の基本方針】

それぞれの専門分野における基本的学力はもとより、自分の研究や思考を他者に伝えることができる表現力、並びに国際コミュニケーション力の土台となる外国語能力を求めます。

【具体的選抜方法と、資質・能力との関係】

博士前期課程の社会人特別入試では、各分野で必要な専門知識と研究計画・実施能力を筆記試験（教育学系のみ）と口述試験で選抜します。

注）本研究科の課程は博士課程であって、これを前期2年の博士前期課程（修士）及び後期3年の博士後期課程（博士）に区分するものです。

1. 専攻・系・講座・研究分野・募集人員

※出願は表中の研究分野の中から1研究分野を選んでください。

※臨床心理学（臨床心理士養成コース）の募集人員8名は、人間科学専攻の一般入試と社会人特別入試の募集人員を合計した89名に含めるものとします。

専攻	系	講 座	研 究 分 野	募集人員
人間科学	行動学系	人間行動学	基礎心理学／応用認知心理学／社会心理学／臨床死生学・老年行動学／環境行動学／安全行動学	若干名
		行動生態学	比較発達心理学／行動生理学／行動統計科学／生物人類学／比較行動学	
	人社会学系・人間学系	社会環境学	現代社会と社会理論／経験社会学／文化社会学	
		基礎人間科学	科学哲学・分析哲学／哲学と質的研究／比較文明学／人類学／科学技術と文化	
	教育学系	臨床教育学	教育人間学／人間変容論／教育工学／教育心理学／臨床心理学（臨床心理士養成コース：一般入試と社会人特別入試を合わせて募集人員8名）	
		教育環境学	教育社会学／教育制度学／生涯教育学／教育文化学	
	共生学系	未来共生学	共生の人間学／共生社会論／共生行動論／共生教育論	
		グローバル共生学	国際協力学／地域創生論／コンフリクトと共生	

2. 出願資格

- (1) 次のいずれかの出願資格を有した後に「官公庁・学校・企業・団体等の在職経験」又は「勤務と同等の在籍経験」が通算2年以上ある者
- ① 大学又は専門職大学を卒業した者
 - ② 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
 - ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - ⑤ 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学も含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - ⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - ⑧ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (2) 在職経験又は勤務と同等の在籍経験が2年以上ある者で、本研究科において、個別の出願資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者又は令和6年3月末日までに24歳に達する者

ただし、大学又は専門職大学を令和6年3月末日までに卒業見込みの者の出願資格審査への申請は認めない。

なお、出願資格(2)により出願しようとする者は、所定の期間内に**出願資格審査申請**を行ってください。

（後出「8. 出願資格審査」参照）

注）出願資格(1)①と(2)の「大学」「専門職大学」は、学校教育法第1条、第83条及び第83条の2に定める日本国内の大学、専門職大学を示す。

3. 出願方法及び注意事項

入学志願者は、出願書類を取りそろえ、人間科学研究科所定の封筒により、大阪大学大学院人間科学研究科教務係へ受理期間内に必着するように**簡易書留速達郵便**にて郵送してください。

なお、受理期間終了後に到着した出願書類については、受理期間最終日以前の発信局（日本国内）消印がある**簡易書留速達郵便**に限り受理します。日本国外からの出願は、受理期間最終日を必着期限とします。

- (1) 願書等受理期間

受 理 期 間
令和5年11月20日(月) ～ 令和5年11月22日(水)

- (2) 出願書類（提出された書類は返却しません。）

- ① 入学願書（本学所定用紙）

※外国人出願者は学歴を小学校入学から別紙（本学所定用紙）に記入してください。

- ② 写真票・受験票

※写真は正面上半身脱帽、3か月以内に撮影したもので、縦5cm×横4cmの大きさのものを所定の位置に貼付してください。

- ③ 検定料収納証明書（検定料収納証明書のPDFファイルをA4サイズで印刷して提出してください。）

《注意》

※**検定料30,000円**を検定料納入システムにより、納入してください。

※国費外国人留学生として入学（出願）する場合は、納入は不要です。

※検定料は、令和5年11月6日(月) 10時から11月22日(水) 17時まで、納入可能です。

※システム利用時に発生する手数料は各自の負担となります。

また、本学の窓口での検定料の受理はできませんので、注意してください。

※検定料納入後、検定料収納証明書のPDFファイルをA4サイズで印刷し、他の出願書類とともに提出してください。

※納入方法の詳細は、以下に掲載の「入学検定料支払いの流れ」をご参照ください。

https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/applicants_for_graduate/admission.html

④ 大学の卒業（修了）証明書（写し不可）

※本学人間科学部出身者及び出願資格審査合格者は提出不要です。

※日本語または英語以外の言語で記載された証明書については、大使館や公証役場等の公的機関が証明済の日本語または英語による訳文を添付してください。

⑤ 学士の学位証明書

※**独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者のみ提出**してください。

⑥ 大学の成績証明書（写し不可）

※本学人間科学部出身者及び出願資格審査合格者は提出不要です。

※大学等の編入学者は編入学前の学校の成績証明書も併せて提出してください（退学により編入学前の学校を離籍した場合も含む）。

※日本語または英語以外の言語で記載された証明書については、大使館や公証役場等の公的機関が証明済の日本語または英語による訳文を添付してください。

⑦ 研究計画書

※これまでの専門及び職業上の経験を述べ、今後の大学院での研究計画について、日本語または英語で、A4用紙に4～5枚程度（日本語で4,000文字程度）（英語については同等程度）をパソコン等で作成してください。

※研究計画書には、所定の提出票を貼って提出してください。

⑧ 「在職期間証明書（別紙1）」又は「勤務と同等の在籍期間証明書（別紙2-1）」（本学所定用紙または所属先の様式）

※証明が得られない場合は、在職等の状況を確認できる書類を提出してください。

※勤務と同等の在籍経験がある者については、指導予定教員が作成する「勤務と同等の在籍経験があると判断する理由書（別紙2-2）」（本学所定用紙）を併せて提出してください。

※日本語または英語以外の言語で記載された証明書については、大使館や公証役場等の公的機関が証明済の日本語または英語による訳文を添付してください。

⑨ 本人の宛先記入の封筒3枚

※『受験票等送付用』（664円切手貼付）・『可否通知書類送付用』・『入学手続き書類送付用』

※いずれの封筒も記入する氏名は、必ず同一言語で記入してください。

※『受験票等送付用』の送付先が日本国外の場合は、国際返信切手券（a. 中国・韓国・台湾12枚、b. アジア【a. の地域を除く】15枚、c. オセアニア・カナダ・メキシコ・中近東・ヨーロッパ25枚、d. 米国【グアム等海外領土含む】30枚、e. 中南米【メキシコを除く】・アフリカ28枚）を提出してください。

※『受験票等送付用』封筒に貼付する664円切手（内訳：定型郵便物84円、速達料260円、簡易書留料320円）は、郵便料金が改正された際は、改正後の料金分の切手を貼付してください。

※『可否通知書類送付用』及び『入学手続き書類送付用』封筒については、切手貼付不要です。

⑩ 在留カードまたは特別永住者証明書の（両面）写し【日本国内在住の外国人出願者に限る】

パスポートの写し（氏名が記載されたページ及び短期滞在ビザをお持ちの場合はそれが記載されたページ）【日本国外在住の外国人出願者に限る】

⑪ その他、出願資格が確認できる書類

※日本語または英語以外の言語で記載された証明書については、大使館や公証役場等の公的機関が証明済の日本語または英語による訳文を添付してください。

(3) 注意事項

- ① 志願者が希望する研究内容が、志望研究分野の研究内容と一致するかなどを確認するため、できる限り志望する研究分野の担当教員に事前連絡を取るようになしてください。

なお、行動学系、教育学系、共生学系については、事前連絡が必須ですので、ご注意ください。

また、教育学系の臨床心理学研究分野では、本研究科のウェブサイトで事前告知のうえ、年1回、説明会を開催しています。

- ② 確認を行う場合の志望研究分野の担当教員への事前の連絡は、願書等受理期間初日の2週間前までに完了させてください。
- ③ 本研究科教員の研究内容については、本研究科ウェブサイトや大阪大学研究者総覧を参照ください。

大阪大学大学院人間科学研究科ウェブサイト <https://www.hus.osaka-u.ac.jp/>

大阪大学研究者総覧 <https://rd.iai.osaka-u.ac.jp/>

《指導予定教員へのアポイントについて》

- ・大阪大学研究者総覧またはresearchmap（リサーチマップ）で志望する研究分野の担当教員のメールアドレスを確認し、連絡を取ってください。 <https://researchmap.jp/>
 - ・大阪大学研究者総覧等でメールアドレスが公開されていない場合は、以下の記載に基づき志望する研究分野の担当教員宛てのメールを送信してください。教務係が指導予定教員にメールを転送します。
 - ・本研究科ウェブサイトアクセスし、ウェブサイト画面下の「お問い合わせ」をクリックし、「内容別の問い合わせ先」の「大学院入試に関すること」に記載の「人科教務係 大学院入試担当」のアドレスに必要事項（氏名、E-mail、連絡を取りたい教員の氏名、研究分野、教員への問い合わせ内容、ご自身の研究内容、略歴等）を記載の上、メールを送信してください。
- ④ 願書等に記入する氏名と証明書に記載された氏名が改氏名等により異なる場合は、同一人物であることを証明する公的書類（戸籍抄本等）を添付してください。
- ⑤ 出願書類に不備がある場合には、受理しません。また、出願手続後の出願書類の変更・返還はできません。
- ⑥ 検定料は次の場合を除き返還はできません。
- ・出願書類を提出しなかった場合または受理されなかった場合
 - ・検定料を誤って二重に振込んだ場合
- ※上記により返還請求する場合は、「3. 出願方法及び注意事項(1)」に記載の願書等受理期間最終日の14日後までに本研究科教務係（kyomu@hus.osaka-u.ac.jp）へ検定料返還請求書を請求してください。
- ⑦ 受験票は、1月中旬に発送します。（受験票が試験日の1週間前までに到着しないときは教務係へ問い合わせてください。）
- ⑧ 出願書類に虚偽の記載をした場合は、入学決定後であっても入学の許可を取り消すことがあります。

4. 障がい者等の事前相談

障がい等がある者で、受験及び修学に際して特別な配慮を希望する者は、出願開始日の1か月前までに教務係（kyomu@hus.osaka-u.ac.jp）まで問い合わせてください。

5. 入学者選抜

学力試験、出願書類（特に研究計画書）を総合して評価します。

注）学力試験

行動学系、社会学・人間学系、共生学系は、口述試験を行います。

教育学系は、筆記試験（専門科目）及び口述試験を行います。ただし、筆記試験の成績によっては、口述試験の受験資格を失う場合があります。

(1) 筆記試験（教育学系のみ）

期 日	時 間	科 目	場 所
令和6年1月31日(水)	10:00～11:30	専 門 科 目	吹田キャンパス 人間科学研究科

注）辞書の持込み不可

(2) 口述試験の受験資格者発表（教育学系のみ）

口述試験の受験資格者発表は、人間科学研究科ウェブサイトを受験番号を掲載します。

日 時	掲 載 場 所
令和6年2月1日(木) 17:00以降	人間科学研究科ウェブサイト TOPページ⇒News 入試情報

また、ウェブサイトに掲載するほか、令和6年2月2日(金)の9:30に人間科学研究科本館正面玄関に掲示により教育学系の受験資格者を発表します。

(3) 口述試験

日 時	場 所
令和6年2月2日(金) 10:00～	吹田キャンパス 人間科学研究科

注）10:00に集合した後は、各学系からの指示に従ってください。

注）口述試験は、個人面接の形態で行うため、終了時間は各人異なります。

6. 合格者発表

人間科学研究科ウェブサイトにも合格者受験番号を掲載します。

日 時	掲 載 場 所
令和6年2月6日(火) 13:30～	人間科学研究科ウェブサイト TOPページ⇒News 入試情報

合格者には、合格通知書及び入学手続案内文書を出願時に同封された封筒にて郵送します。

7. 入学手続

(1) 合格者には、令和6年2月中旬に出願時に提出された封筒で入学手続案内文書を郵送します。入学手続案内文書に従い、令和6年3月4日(月)～令和6年3月6日(水)必着で必要書類を簡易書留郵便で郵送して入学手続を完了してください。

(2) 所定の期間内に入学手続を完了しない場合には、入学を辞退したものとして取り扱います。

(3) 入学料及び授業料

入 学 料 : 282,000円（令和5年5月現在）

授 業 料 : 年額 535,800円〔半期267,900円〕（令和5年5月現在）

※入学料、授業料の納入時期、納入方法等詳細については、別途入学手続案内文書でお知らせします。

※入学料、授業料の金額については変更することがあります。

また、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時からの新授業料が適用されます。

8. 出願資格審査

「2. 出願資格の(2)」により出願資格審査を受けようとするものは、申請書類を取りそろえ、申請期間内必着にて大阪大学大学院人間科学研究科教務係へ簡易書留郵便により郵送してください。日本国外からの申請の場合も、申請期間最終日を必着期限とします。

なお、宛名は、大阪大学大学院人間科学研究科 大学院入学資格認定委員会宛とし、「博士前期課程社会人特別入試出願資格審査書類在中」と朱書きしてください。

(1) 申請書類（提出された書類は返却しません。）

- ① 出願資格審査申請書（本学所定用紙）
- ② 出願資格審査調書（本学所定用紙）
- ③ 自己推薦書（A4用紙・2,000字程度、今まで行ってきた仕事や勉強（研究）内容と今後行いたい研究内容を含めて作成してください）
- ④ 他者の推薦書2通（担当教員、上司等適正能力を評価できる者）
- ⑤ 最終出身学校の卒業（または在学期間）証明書または卒業見込証明書
- ⑥ 最終出身学校の成績証明書
- ⑦ 最終出身学校の学則及びシラバス（授業計画）（写し可）
- ⑧ 職歴に関する証明書（履歴に記入した職歴の証明を提出してください）
- ⑨ その他、自己の学力を示す論文やレポート、所持している資格で参考になるものがあればその写しや証明書等
- ⑩ 返信用封筒（長形3号－縦23.5cm×12cm）（返信先を明記し、664円切手を貼付してください）

※返信用封筒に貼付する664円切手（内訳：定型郵便物84円、速達料260円、簡易書留料320円）は、郵便料金が改正された際は、改正後の料金分の切手を貼付してください。

※送付先が日本国外の場合は、EMS（国際スピード郵便）で郵送するため、国際返信切手券（a. 中国・韓国・台湾12枚、b. アジア【a. の地域を除く】15枚、c. オセアニア・カナダ・メキシコ・中近東・ヨーロッパ25枚、d. 米国【グアム等海外領土含む】30枚、e. 中南米【メキシコを除く】・アフリカ28枚）を提出してください。

注）申請書類④⑤⑥⑦⑧⑨については、日本語または英語以外の言語で記載されたものである場合は、大使館や公証役場等の公的機関が証明済の日本語または英語による訳文を添付してください。

(2) 注意事項

- ① 願書等に記入する氏名と証明書に記載された氏名が改氏名等により異なる場合は、同一人物であることを証明する公的書類（戸籍抄本等）を添付してください。
- ② 出願書類に虚偽の記載をした場合は、入学決定後であっても入学の許可を取り消すことがあります。

(3) 出願資格審査申請期間

申 請 期 間
令和5年10月16日(月) ～ 令和5年10月20日(金) 必着

(4) 出願資格審査結果通知

令和5年10月30日(月)に審査結果通知書を郵送する予定です。（1週間を過ぎても到着しない場合は教務係に問い合わせてください。）

(5) その他

出願資格審査申請書等、本学所定用紙は、人間科学研究科ウェブサイトからダウンロードしてください。

人間科学研究科ウェブサイト

大学院受験生 >> 大学院入試 >> 出願資格審査について

9. 個人情報の取扱い

(1) 出願時に提出された氏名、住所、その他の個人情報については、「入学者選抜（出願処理、選抜試験

実施)」、「合格者発表」及び「入学手続」等の入試業務を行うために利用します。

なお、合格者については合格発表日以降、入学後に履修可能な教育プログラムについて案内するために利用することがあります。

また、入学者については、「教務関係（学籍管理、修学指導）」、「学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）」及び「授業料収納に関する業務」を行うためにも利用します。

- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報、「入試結果の集計・分析」、「入学者選抜方法の調査・研究」及び「学生支援関係（奨学金業務等）」のために利用します。
- (3) 上記(1)及び(2)で得られた個人情報は、上記のほか、「入学者選抜方法及び大学教育の改善」、「大学の管理運営（各種調査・分析、事業企画等）」のために利用することがあります。ただし、個人が特定される形で、その成果が公表されることはありません。
- (4) 上記(1)～(3)の業務を行うにあたり、一部の業務を外部の業者に委託する場合があります。この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して、提出された個人情報の全部または一部を提供します。

10. その他

- (1) 自動車及び自動二輪（原動機付自転車を含む）による大学構内への入構はできません。
- (2) 受験のための宿泊施設等の斡旋はしません。
- (3) 自然災害や感染症拡大などの緊急事態の発生により、やむを得ず選抜方法及び日程等が変更になる可能性があります。その対応につきましては、必要に応じて本研究科のウェブサイトに掲載若しくは入学願書に記載のメールアドレスに送信いたしますので、必ず確認してください。

令和5年5月

書類送付先及び問い合わせ先

〒565-0871 吹田市山田丘1-2 大阪大学大学院人間科学研究科教務係

TEL 06-6879-8014（直通）

e-mail : kyomu@hus.osaka-u.ac.jp

事務取扱時間：平日の9時00分～11時30分、12時30分～17時00分

（年末年始、入試等の行事実施日等を除く。）

大阪大学大学院人間科学研究科ウェブサイト <https://www.hus.osaka-u.ac.jp/>

令和5年度 担当教員研究内容一覧

系	講座	研究分野	担当教員	研究内容
人間行動学系	人間行動学	基礎心理学	教授 ◎入戸野 宏	心理生理学(特に脳波)、工学心理学、「かわいい」の実験心理学
			教授 森 川 和 則	知覚(特に視覚)と認知の実験心理学的研究[令和6年3月退任予定]
		応用認知心理学	教授 ◎篠 原 一 光	日常的場面における行動と認知の実証的研究、認知人間工学、交通心理学
		社会心理学	教授 ◎三 浦 麻 子	コミュニケーション・集団過程に関する実験社会心理学研究
			准教授 ◎綿 村 英一郎	法と心理、司法制度に関わる心理学的研究
		臨床死生学・老年行動学	教授 ◎権 藤 恭 之	高齢期の認知機能の特徴、超高齢期における心理的発達、長寿要因の研究
			教授 ◎三 好 恵真子	実践志向型地域研究による環境問題の課題解決、食と環境、人と自然との共生、環境修復・リサイクル技術開発
		環境行動学	准教授 ◎青 野 正 二	環境問題の諸要因と人間行動、騒音制御、音響学、環境評価、環境デザイン
			准教授 ◎小 林 清 治	「迷惑施設」の立地をめぐる紛争と合意形成に関する研究、環境問題と公共性
		安全行動学	准教授 ◎中 井 宏	効果的な安全教育プログラムの開発と実践、不安全行動の個人差研究
	行動生態学	比較発達心理学	教授 ◎鹿子木 康 弘	乳幼児を対象とした社会的認知に関する発達研究
		行動生理学	教授 ◎八十島 安 伸	学習・記憶・情動・行動選択の脳基盤についての行動神経科学的研究
		行動統計科学	教授 足 立 浩 平	多変量統計解析のモデルと解法の研究開発[令和6年3月退任予定]
			准教授 ◎山 本 倫 生	統計的データ解析手法とその数理的基礎理論の研究開発
		生物人類学	准教授 ◎中 野 良 彦	運動と形態の系統発達から見た人類進化に関する研究
		比較行動学	講師 ◎勝 野 吏子	コミュニケーションに関する比較認知・行動学
社会環境学・人間科学系	社会環境学	現代社会と社会理論	教授 ◎川 端 亮	まちづくり研究や新宗教研究を含む現代社会の研究
			准教授 ◎クロイドン・シルビア CROYDON, Silvia	犯罪社会学、生命倫理学、人権理論と実践
			准教授 ◎山 田 陽 子	感情社会学、医療社会学、社会問題論、社会学史
			准教授 ◎遠 藤 知 子	福祉理論、社会政策、現代政治理論、デモクラシー論
		経験社会学	教授 ◎吉 川 徹	計量社会意識論、社会階層論、学歴社会論
			教授(兼) ◎川 端 亮	社会調査法、宗教性・宗教意識の研究、テキストの計量的分析法
			准教授 ◎五十嵐 彰	移民研究、排外意識・集団間関係研究
		文化社会学	教授 ◎山 中 浩 司	医療社会学、臨床文化史、科学社会学、テクノロジーの社会研究
			教授 ◎辻 大 介	コミュニケーション論、メディア研究
	人間科学	科学哲学・分析哲学	教授 ◎森 田 邦 久	科学史、科学哲学、科学技術社会論、分析哲学、分析形而上学
			教授 ◎村 上 靖 彦	現象学、現象学的な質的研究
		哲学と質的研究	教授【兼】COデザインセンター ほんま な ほ	哲学プラクティス、フェミニズム哲学
		比較文明学	准教授 ◎野 尻 英 一	哲学、社会理論、精神分析、表象文化論
		人 類 学	教授 ◎福 岡 まどか	アートの人類学的研究、文化表象と身体表象の人類学的研究、東南アジアの上演芸術研究、現代アートとポピュラーカルチャー研究
			教授 ◎白 川 千 尋	医療人類学、宗教人類学、アジア・オセアニア研究
		科学技術と文化	教授 ◎森 田 敦 郎	科学技術の人類学、気候変動適応における科学技術と文化的想像力のダイナミズム、人新世の環境人文学
			講師 ◎鈴 木 和歌奈	科学技術社会論、実験室の民族誌、ケア論、情動論
教育学系	臨床教育学	教育人間学	教授 ◎岡 部 美 香	近代の教育人間学・人類学、子ども期(インファンス)の教育思想史、教育民俗学
		人間変容論	教授 ◎藤 川 信 夫	人間の変化・変容のパターンに関する理論的及び実践的研究
		教育工学	教授 ◎西 森 年 寿	テクノロジー活用などの学習環境のデザインに関する研究
			教授【兼】経営企画オフィス 齊 藤 貴 浩	教育事業評価、大学評価、高校生の進路選択、プログラミング教育
			教授【兼】教育学部推進機構 村 上 正 行	大学教育における教育データ分析、授業デザインに関する研究
			准教授【兼】国際教育交流センター 岡 本 紗 知	科学教育、微生物学、科学英語
			講師 ◎後 藤 崇 志	人の主体的な社会適応を支える教育・学習過程の研究
		教育心理学	教授 ◎野 坂 祐 子	被害体験による影響とその回復に関する研究
		臨床心理学 (MC臨床心理士養成コース)	教授 老 松 克 博	心理療における宗教性・心身関係、自己愛、イメージ変容についてのユング心理学的・精神医学的研究[令和6年3月退任予定]
			教授 ◎野 村 晴 夫	心理療法、生涯発達における語り(ナラティブ)と記憶想起の機能の研究
			教授(兼)教育学研究分野 野 坂 祐 子	被害体験による影響とその回復に関する研究
			准教授 ◎佐々木 淳	社交不安に関する研究及び認知行動療法の実践と研究

系	講座	研究分野	担当教員	研究内容
教育学系	臨床教育学	臨床心理学 (MC臨床心理士養成コース)	准教授 ◎管 生 聖 子	産期・精神科医療領域におけるこころのケア、グリーフケア、子育て支援
			准教授(兼) 平 井 啓	コンサルテーションリエゾン心理学の理論と実践、意思決定と行動変容に関する実践的研究
			准教授【兼】 キャンパスライフ推進支援 相談センター	生涯発達段階、病態水準、心理療法の行われる場の違いによる心理療法のプロセスおよび治癒因子の研究
			准教授【兼】 大阪大学・金沢大学・ 浜松医科大学・千葉大学・ 福井大学 基幹総合医学研究センター	心理療法における身体性、動作法、筋疾患者の心理学
	教育環境学	教育社会学	教 授 ◎木 村 涼 子	ジェンダーと教育に関する研究、ジェンダーに関する歴史社会学
			教 授 ◎荒 牧 草 平	社会構造やネットワークが人々の行為に与える影響の研究
			教授【兼】 国際教育交流センター	教育人類学、異文化間教育学、文化習得に関する研究
		教育制度学	教 授 ◎園 山 大 祐	EU/フランス/マイノリティの教育政策・制度に関する比較国際研究
			准教授 ◎高 橋 哲	アメリカ/子どもの教育を受ける権利/教師の働き方/教育改革の日本比較
		生涯教育学	教 授 ◎岡 田 千あき	生涯スポーツ、コミュニティとスポーツ、開発と平和のためのスポーツに関する研究
			教授(兼) 教育社会学研究分野	ジェンダーと教育に関する研究、ジェンダーに関する歴史社会学
			准教授 ◎北 山 夕 華	北欧/イギリス/多文化社会の教育実践と社会正義、シティズンシップ教育
			准教授【兼】 国際教育交流センター	高等教育政策、大学の国際化、入試の多様化
		教育文化学	教 授 ◎高 田 一 宏	同和教育論、地域教育論、教育と福祉の連携に関する研究
			教授(兼) 共生社会論研究分野	教育システム・学校文化に関する社会学的研究
	共生学	共生の人間学	教 授 ◎斉 藤 弥 生	社会福祉学、高齢者介護・地域福祉・ボランティア等に関する研究、北欧社会研究 ●令和5年4月、社会環境学「福祉社会論」研究分野から異動
			教授(兼) 人間変容論研究分野	歴史的・文化的人間学、支援者・被支援者間の相互行為に関するドラマトウギー的研究
			教授【兼】 COデザインセンター	文化人類学、新技術の受容とその社会的インパクト、人口減少と自然・社会環境の変化
			准教授 ◎近 藤 和 敬	共生の哲学・思想、現代フランス哲学、日本の思想
		共生社会論	准教授 ◎中 井 好 男	ことばとその活動、ディスアビリティから共生を考える質的研究
			教 授 ◎稲 場 圭 信	利他主義・市民社会のアクション・リサーチ、ソーシャル・キャピタルとしての宗教に関する研究
			教 授 志 水 宏 吉	教育における排除と包摂、格差社会のなかの公正に関する研究
		共生行動論	教 授 千 葉 泉	「自分らしき」活居学、対話と共生、音楽的コミュニケーション、ラテンアメリカ地域研究[令和6年3月退任予定]
			教 授 ◎渥 美 公 秀	ボランティア行動を介した被災者・被災地との共生に関するグループ・ダイナミクス研究
			教授(兼) 臨床死生学・ 老年行動学研究分野	ソーシャル・キャピタルが健康、寿命に与える影響の研究、長寿者の語りから見る幸福感の研究
			教授【兼】 国際教育交流センター	多文化共生の局面での行動や社会構築のあり方に関する研究
グローバル共生学	国際協力学	国際協力学	准教授 ◎宮 本 匠	災害復興、防災・減災、地域活動についてのアクション・リサーチ
			教授【兼】 理事・副学長	ジェンダー・セクシュアリティ研究、多文化社会の諸問題、教育の国際化研究
			准教授 ◎山本ベバリー・アン YAMAMOTO Beverly Anne エフゾット・クリスティアン ETZRODT Christian	社会学理論、国際化、社会学教育、政治社会学、金融論
		地域創生論	教 授 ◎澤 村 信 英	比較国際教育学、国際教育開発論、アフリカにおける教育開発・国際協力に関する研究
			教 授 ◎杉 田 映 理	水・衛生・月経対処の諸問題、アフリカにおける社会開発・国際協力に関する研究、開発人類学
			教授(兼) 人類学研究分野	国際協力活動の人類学的研究
			教 授 ◎大 谷 順 子	国際保健・人口学、母子保健、国際災害社会学、中国・中央アジア地域の社会開発、研究方法論
			教 授 ◎河 森 正 人	東アジアの高齢者・障がい者福祉、共生のコミュニティづくりに関する研究、地方創生、タイ地域研究
			教 授 ◎藤 目 ゆ き	日本近現代史、アジア女性史、ジェンダー論
			教授【兼】 GI機構	地域創生に関する研究、東南アジアにおける食の近代化に関する研究、国際協力に関する研究
		コンフリクトと共生	准教授 ◎モハーチ・ゲルゲイ MOHACSI Gergely	病気と創業の比較民族誌研究、気候変動における植物と人間の共生、プラネタリーヘルス
			准教授 ◎太 田 貴 大	生態系サービス、自然環境共生、自然環境政策、持続的な農林水産業、野生生物—人間関係
			講師(兼) 比較行動学研究分野	利害の対立と葛藤解決がもたらす霊長類の社会進化、動物と人間の共生

(注) 1. この一覧表は令和5年4月1日現在で作成しています。以後の変更は人間科学研究科ウェブサイト (<https://www.hus.osaka-u.ac.jp>) 等でお知らせしますので、ご確認ください。

(※社会学・人間学系社会環境学講座の「コミュニケーション社会学」「福祉社会論」は、令和6年度から廃止となるため記載なし)

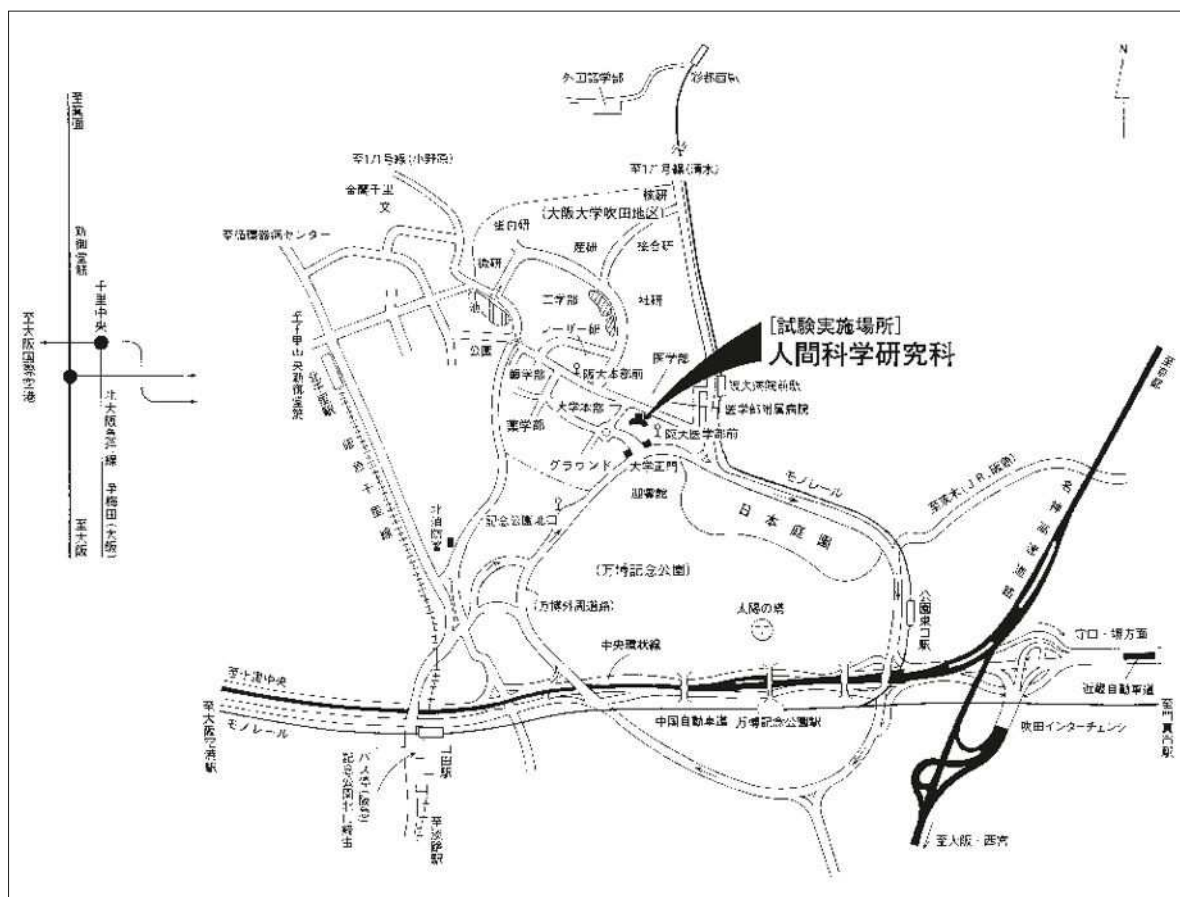
2. 職名の(兼)は研究科内兼任教員を、【兼】は研究科外の兼任教員を示します。職名の下表記は所属を示します。(※「GI機構」はグローバルイニシアティブ機構の略称)

3. 氏名の前に◎印を付していない教員については、主たる指導教員になることができません。

(※副指導教員になることは可能)

また、希望する指導教員が複数の研究分野に在籍している場合は、必ず◎印を付した研究分野で出願してください。

● 人間科学研究科 試験実施場所 ●



※ 本学では車両による入構を規制しています。

○利用交通機関（吹田地区）

〔バス〕 阪急バス 千里中央駅発「阪大本部前行」または「茨木美穂ヶ丘行」（阪急山田駅経由）

近鉄バス 阪急茨木市駅発「阪大本部前行」（JR茨木駅経由）

いずれも、「阪大医学部前」または「阪大本部前」下車、徒歩約5分

〔モノレール〕 大阪モノレール「阪大病院前駅」下車西へ徒歩約10分

〔電車〕 阪急電車千里線 「北千里駅（終点）」下車 東へ徒歩約30分